

# 日本メンデル協会 第2回大会（福井）のご案内



## ご挨拶

日本メンデル協会は、イメージング、顕微鏡技術、分子生物学、バイオインフォマティクスなど多様な研究手法を駆使し、細胞学、細胞遺伝学、細胞生物学を含む細胞科学および遺伝学の分野における幅広い生物の研究発表を支援しています。このたび、第2回大会を福井県商工会議所にて開催する運びとなりました。本大会では、会員同士の親睦を深め、学術研究の発展を促すことを目的として、宿泊地にて情報交換会を開催いたします。また、永平寺と福井県立恐竜博物館を巡るエクスカーションも企画しました。本大会が細胞遺伝学の新たな地平を切り拓き、皆様の研究のさらなる発展の契機となることを期待しております。

日本メンデル協会第2回大会実行委員会

大会会長：風間 裕介（福井県立大学）

実行委員長：永田 典子（日本女子大学）、佐々木成江（東北大学）

## 1. 期日 2025年6月14日（土）～15（日）

受付開始：6月14日 12:30

## 2. 会場 福井商工会議所2F 会議室A&B 〒918-8580 福井県福井市西木田2-8-1

### 交通アクセス

福鉄 福井駅より上りに乗車、「商工会議所前」で下車（約12分） 別添参照

タクシー 福井駅より乗車（約3分）

徒歩（約15分）

## 3. 大会参加費、情報交換会費、エクスカーション参加費

### （1）大会参加費

会員 正会員：3,000円 学生会員：1,000円

非会員 一般：4,000円 学生：2,000円

注）福井県立大学の学生、及び高校生は大会参加費無料です。

### （2）情報交換会参加費

情報交換会+宿泊 一般：18,000円 学生：14,000円

情報交換会のみ 一般：8,000円 学生：4,000円

### （3）エクスカーション参加費

一般、学生共通：3,000円（昼食、恐竜博物館見学、交通費込み）

#### 4. プログラム

6月14日（土）

**12:30 大会受付（福井商工会議所 2階 会議室A&B）**

大会参加費と情報交換会参加費、宿泊費、エクスカーション参加費等をお支払いの上、ネームカードをお受け取りください。

日本メンデル協会入会も同時に受け付けております。入会もぜひご検討ください。

**12:30～14:00 評議員会（6階 会議室G）ハイブリッド会議**

**14:00～14:20 総会・表彰式**

**14:20～15:35 奨励賞受賞講演**

14:20～14:45 坂本勇貴（信州大学）

「シロイヌナズナにおける核ラミナタンパク質CRWNsの解析」

14:45～15:10 平野智也（宮崎大学）

「重イオンビーム照射花粉を用いた雄性配偶子のDNA損傷応答解析」

15:10～15:35 藤原崇之（国立遺伝学研究所）

「温泉紅藻シアニジウム類における実験技術開発と今後の展開」

15:35～15:45 休憩

**15:45～16:15 招待講演**

15:45～16:00 伊藤崇志（福井県立大学）

「タウリンの肝臓における抗細胞老化作用の検討」

16:00～16:15 田中厚子（琉球大学）

「オキナワモズクの形態形成—三次元構造の組織化と分化転換—」

**16:15～17:45 特別招待講演**

16:15～16:45 柏山祐一郎（福井工業大学）

「遺伝子から考える盗葉緑体性鞭毛虫ラバザの進化」

16:45～17:15 野澤昌文（東京都立大学）

「ショウジョウバエにおける多様な性染色体の進化」

17:15～17:45 黒岩麻里（北海道大学）

「Y染色体をもたない哺乳類の性決定と性染色体の進化」

**18:30～ 情報交換会（亀の井ホテル）**

6月15日（日）

**9:00～11:30 ポスター発表（2階 会議室A&B）**

奇数番号発表9:00～10:00 偶数番号発表10:00～11:00

**11:40～17:50 エクスカーション（昼食、永平寺散策、恐竜博物館、Eshikoto）**

## 5. ポスター発表

今大会は招待講演以外はポスター発表のみとなります。但し、ポスター発表の中から、実行委員会の推薦により招待講演をお願いする場合があります。A0ポスター（841mm × 1189mm）以内のポスターをご用意ください。当日は、会場で準備しております画鋲やテープなどをご使用の上、指定の番号のボードに10時までにポスターをお貼りください。発表時間は奇数番号9:00-10:00、偶数番号10:00-11:00です。○がポスター演者になります。ポスターは6月15日（日）の11時30分までにボードから剥がして、発表者各自でお持ち帰りください。優れたポスター発表をした若手発表者数名（★は審査対象）にポスター発表優秀賞を表彰いたします。

### ★P-01 動物培養細胞の食作用を利用したシアノバクテリアの取り込み・維持プロセスの細胞内動態研究

○石田萌音<sup>1</sup>、小玉智恵<sup>1</sup>、乾弥生<sup>1</sup>、仮屋園遼<sup>2</sup>、松永朋子<sup>1</sup>、小山内崇<sup>2</sup>、丸山真一朗<sup>1</sup>、  
松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大・院・新領域、<sup>2</sup>明治大・農

### ★P-02 動植物ハイブリッド細胞における外来DNAの核内移行のライブセルイメージング解析

○上原彩水<sup>1</sup>、青木遼太<sup>1</sup>、渋川晴輝<sup>1</sup>、松永朋子<sup>1</sup>、乾弥生<sup>1</sup>、松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大・院・新領域

### ★P-03 動物培養細胞の貪食能向上法の開発による細胞内共生成立メカニズムの解明

○小玉智恵<sup>1</sup>、乾弥生<sup>1</sup>、丸山真一朗<sup>1</sup>、松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大・院・新領域

### P-04 タウリンの肝臓における抗細胞老化作用の検討

○伊藤崇志<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・生物資源

### ★P-05 倍数体ヒロハノマンテマを用いたX染色体の性決定能の解析

○小林壮生<sup>1</sup>、落合詩月<sup>1</sup>、風間裕介<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源

### P-06 より生きている状態の微細構造観察を求めて：サンドイッチ凍結技法を用いた

電子顕微鏡的研究

○山口正視<sup>1</sup>、高橋 梢<sup>1</sup>、知花博治<sup>1</sup>

<sup>1</sup>千葉大・真菌医学研究センター

### ★P-07 微細藻類の細胞外プロテオーム解析による細胞間相互作用の探索と分泌タンパク質の多様性

○アベディンシャプニルレイシラク<sup>1</sup>、乾弥生<sup>1</sup>、松林嘉克<sup>2</sup>、丸山真一朗<sup>1</sup>、松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大・院・新領域、<sup>2</sup>名大・院・理

### ★P-08 重イオンビームで作出了したシロイヌナズナ倍数化変異体の遺伝様式

○兵渡友誉<sup>1</sup>、鶴飼優葉<sup>1</sup>、阿部知子<sup>1</sup>、風間裕介<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>理研・仁科センター

★P-09 緑化時における酸性膜脂質変異体の色素体解析

○上床理紗<sup>1</sup>、吉原晶子<sup>2</sup>、小林啓子<sup>1</sup>、高橋綾子<sup>1</sup>、大崎有美<sup>1</sup>、小林康一<sup>2</sup>、永田典子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>日本女子大・院・理、<sup>2</sup>大阪公大・院・理

★P-10 ゼラニウム卵細胞の巨大ミトコンドリアにおける膜構造解析

○津田 安咲子<sup>1</sup>、高橋 綾子<sup>2</sup>、黒岩 晴子<sup>2</sup>、黒岩 常祥<sup>2</sup>、永田 典子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>日本女子大・院・理、<sup>2</sup>日本女子大・理

P-11 イチョウの早生種と晩生種のRNAseq解析

山下博史<sup>1</sup>、澁谷 龍弥<sup>2</sup>、呂 虹橋<sup>3</sup>、内田 美重<sup>3,4</sup>、小林 正美<sup>2</sup>、景山 伯春<sup>4</sup>、井上 和仁<sup>5,6</sup>、

○内田 英伸<sup>3,6</sup>

<sup>1</sup>京都府大・環境理、<sup>2</sup>筑波大・物質工学域、<sup>3</sup>名古屋文理大・フードビジネス、<sup>4</sup>名城大・院  
総合学術、<sup>5</sup>神奈川大・化学生命、<sup>6</sup>神奈川大・総理研

★P-12 *Abelmoschus manihot*—越前和紙用系統と観賞用系統の比較

○高橋望花<sup>1</sup>、大関澄花<sup>1</sup>、小嶋美紀子<sup>2</sup>、竹林裕美子<sup>2</sup>、榊原均<sup>2</sup>、嶋田千香<sup>3</sup>、片野肇<sup>1</sup>、池田  
美穂<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・生物、<sup>2</sup>理研・環境資源、<sup>3</sup>福井大・学術研究院

★P-13 コムギ祖先種*Aegilops tauschii*の芒の長さを決める遺伝子のマッピング

○井元光志<sup>1</sup>、西嶋遼<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・生物

★P-14 間接免疫蛍光染色法を用いたシロイヌナズナ染色体部分重複変異体のエピゲノム解析

○鵜飼優葉<sup>1</sup>、西嶋遼<sup>1</sup>、Jeffrey Fawcett<sup>2</sup>、坂本卓也<sup>3</sup>、生駒拓也<sup>1</sup>、杉田和陽<sup>1</sup>、兵渡友謙<sup>1</sup>、  
乾弥生<sup>4</sup>、田中裕之<sup>5</sup>、伊藤武彦<sup>5</sup>、阿部知子<sup>6</sup>、松永幸大<sup>4</sup>、風間裕介<sup>1,6</sup>

<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>リージョナルフィッシュ、<sup>3</sup>神奈川大・理、<sup>4</sup>東京大・院・新領域、<sup>5</sup>東京科学大・生命理工、<sup>6</sup>理研・仁科センター

P-15 無融合種子生殖種における倍数性と減数分裂過程の細胞遺伝学的解析

○佐藤杏子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>富山大・学術・理

★P-16 トレニアにおける*OPR3*ホモログ欠損変異体の解析

○黛隆宏<sup>1</sup>、森住匠翔<sup>1</sup>、池田美穂<sup>1</sup>、松永幸大<sup>2</sup>、風間裕介<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>東京大・院・新領域

★P-17 Ca<sup>2+</sup>が植物のDNA二本鎖切断修復に与える影響

○江守祐汰郎<sup>1</sup>、Alvin Sanjaya<sup>1</sup>、坂口実夢<sup>1</sup>、高城啓一<sup>2</sup>、風間裕介<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>若工研・生物資源

★P-18 シリンジ法による難形質転換植物への簡便な遺伝子導入

○五十嵐由依<sup>1</sup>、杉本愛華<sup>1</sup>、小林壮生<sup>1</sup>、乾弥生<sup>2</sup>、工藤洋<sup>3</sup>、山本将之<sup>4</sup>、松永幸大<sup>2</sup>、風

間裕介<sup>1</sup>、池田美穂<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・生物資源、<sup>2</sup>東大・院・新領域、<sup>3</sup>京大・生態研、<sup>4</sup>富山大・院・理工

★P-19 トレニアの蜜標欠損変異体を用いた訪花昆虫飛来頻度の測定

○小川馨乃子<sup>1</sup>、黛隆宏<sup>1</sup>、小越咲子<sup>2</sup>、篠山治恵<sup>1</sup>、畠下昌範<sup>3</sup>、高城啓一<sup>3</sup>、阿部知子<sup>4</sup>、風間裕介<sup>1,4</sup>

<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>福井高専・電子情報工、<sup>3</sup>若工ネ研・生物資源、<sup>4</sup>理研・仁科センター

P-20 ミズゴケ属2種のゲノムサイズおよび細胞遺伝学的比較研究

○加藤木高広<sup>1</sup>、高山 晴夫<sup>2</sup>、星良和<sup>3</sup>

<sup>1</sup>東海大・総農研、<sup>2</sup>鹿島・技研、<sup>3</sup>東海大・農学

★P-21 藻類-動物培養細胞ハイブリッド細胞株の長期継代における染色体動態解析

○箕浦夕紀<sup>1</sup>、松永朋子<sup>1</sup>、青木遼太<sup>1</sup>、數藤由美子<sup>2</sup>、松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京大・院・新領域、<sup>2</sup>量研機構・放医研

P-22 花粉管伸長過程における新規転写の役割

○瀧田未央<sup>1</sup>、小松愛那<sup>1</sup>

<sup>1</sup>山形大・理

★P-23 ナガバノモウセンゴケとその起源となる両親種の二列状トライコームの細胞形態と密度の違いについて

○船越さゆり<sup>1</sup>、小禄瞬太<sup>2</sup>、星良和<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東海大・院・農、<sup>2</sup>東海大・農

★P-24 イトバモウセンゴケの染色体上に存在するATリッチ領域は減数分裂において局在型の動原体として機能する

○寺崎景吾<sup>1</sup>、星良和<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東海大・院・農、<sup>2</sup>東海大・農

P-25 緑藻およびトレボウクシア藻の従属栄養培養能とGABAやオルニチンなどのアミノ酸類の誘導

○竹下毅<sup>1,2</sup>、惠良田眞由美<sup>2</sup>、越智奈津子<sup>2</sup>、臼田祥子<sup>2</sup>、田口裕基<sup>2</sup>、河野重行<sup>2</sup>

<sup>1</sup>京都大・院・人間環境、<sup>2</sup>東京大・院・新領域

★P-26 エンバクの重イオンビーム変異体集団の作出

○遠藤柊平<sup>1</sup>、畠下昌範<sup>2</sup>、高城啓一<sup>2</sup>、西嶋遼<sup>1</sup>

<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>若工ネ研・生物資源

★P-27 孔辺細胞および敷石細胞におけるK+イオン分布解析と膜交通因子PATROL1と表層微小管の共局在解析出

○安達萌華<sup>1</sup>、祢宜淳太郎<sup>2</sup>、射場厚<sup>2</sup>、檜垣匠<sup>1</sup>

<sup>1</sup>熊本大・院・自然科学、<sup>2</sup>九州大・院・理

★P-28 気孔運動制御因子PATROL1の塩ストレス下における局在と機能の解析

○岡松真白<sup>1</sup>、射場厚<sup>2</sup>、祢宜淳太郎<sup>2</sup>、檜垣匠<sup>1</sup>

<sup>1</sup>熊本大・院・自然科学、<sup>2</sup>九州大・院・理

P-29 オキナワモズクの形態形成—三次元構造の組織化と分化転換—

稻福菜実子<sup>1</sup>、佐藤陽一<sup>2</sup>、○田中厚子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>琉大・院・理工学、<sup>2</sup>理研食品

P-30 クロレラ(*Parachlorella kessleri*)の内部倍数性と重イオンビーム照射による染色体断片化

○石井公太郎<sup>1,2</sup>、浅野円花<sup>3</sup>、風間裕介<sup>1,4</sup>、竹下毅<sup>3</sup>、Katerina Bisova<sup>5</sup>、河野重行<sup>3,6</sup>、

阿部知子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>理研・仁科センター、<sup>2</sup>量研・放医研、<sup>3</sup>東京大・院・新領域、<sup>4</sup>福井県大・生物資源、

<sup>5</sup>IMIC・ALGATECH、<sup>6</sup>東京大・新領域・ライフサイエンス

★P-31 画像情報の低次元化に基づくBY-2細胞に生物活性を示す化合物の探索

○内田絢香<sup>1</sup>、寺田みのり<sup>2</sup>、檜垣匠<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>熊本大・院・自然科学、<sup>2</sup>熊本大・理

P-32 微細藻類を取り込んだ動物培養細胞で生じる細胞障害の解析

小島龍弥<sup>1</sup>、○松永朋子<sup>1</sup>、松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大・院・新領域、<sup>2</sup>新潟大・理

★P-33 ネジバナの単一受精メカニズムを細胞周期から探る

○福村薰<sup>1</sup>、水上茜<sup>1,2</sup>、東山哲也<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京大・院・理、<sup>2</sup>愛知学院大・教養

★P-34 カルビン回路関連遺伝子群の導入による哺乳類細胞への炭素固定能の付与

○新井美空<sup>1</sup>、松永朋子<sup>1</sup>、墨谷暢子<sup>2</sup>、松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大・院・新領域、<sup>2</sup>新潟大・理

P-35 先立つものは種苗生産—褐藻マコンブ初期成長の最適環境条件を探る—

○佐藤陽一<sup>1</sup>、保科美和<sup>1</sup>、最上谷美穂<sup>1</sup>

<sup>1</sup>理研食品

★P-36 動物細胞におけるクロロフィル合成経路確立の試み

○小島龍弥<sup>1</sup>、松永朋子<sup>1</sup>、墨谷暢子<sup>2</sup>、松永幸大<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東大・院・新領域、<sup>2</sup>新潟大・理

P-37 渦鞭毛藻の縦および横鞭毛のそれぞれに見られる二つの異なる運動とそれらの運動装置

○丸山正<sup>1</sup>

<sup>1</sup>北里大・海洋生命科学

## 6. エクスカーション

福井の代表的な観光地である永平寺と恐竜博物館を巡るバスツアーを企画しました。**食事代、交通費込みで参加費3,000円**です。お誘い合わせの上ご参加ください。

11:40 福井商工会議所発

12:30 ほっきょ荘で食事+永平寺山門散策

<https://hokkyoso.co.jp/menu/c1079001>

<https://daihonzan-eiheiji.com/sanpai.html>

13:40 永平寺発  
14:00 Eshikoto(黒龍酒造) 着  
14:30 Eshikoto発  
15:00 恐竜博物館着  
<https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/>  
16:50 恐竜博物館発  
17:50 福井駅着

## 7. 大会に関する問い合わせ先

〒162-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学理学部

日本メンデル協会第2回大会実行委員長 永田典子 E-mail: n-nagata@fc.jwu.ac.jp

## 8. 日本メンデル協会入会のお誘い

日本メンデル協会の正会員:会費は年9,800円です。なお、正会員であっても、学生、ポスドク(PD)、退職者は申し出れば会費を2,000円に減額します。

**正会員は、学術誌CYTOLOGIAに投稿し、審査を通過すれば1年間に2回までは無料で論文を掲載することができます。**また、日本メンデル協会通信を無料で受け取ることができます。

大会後に入会を希望される場合は、下記までご連絡ください。

日本メンデル協会 幸光萬里

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-2 工ポック本郷

TEL:03-3814-5675 FAX:03-3814-5352

E-mail: ISC-Mendel-Cytologia@edu.k.u-tokyo.ac.jp

## 9. 学術誌CYTOLOGIAへの投稿のお願い

CYTOLOGIA（キトロギア）は、原著論文、レビュー、フォーカス、テクニカルノートなどを掲載する英文学術誌です。原著論文はサーキュレーションがいいのが特徴です。フォーカスはキトロギアに焦点をあてた短いレビュー、テクニカルノートは大扉とペアの2ページの短報です。テクニカルノートに掲載が決まると原稿料を差し上げます。大扉はキトロギアの表紙も兼ねていて、キトロギアが扱う代表的な分野とその時々の最新の話題が表紙になります。

キトロギアは、科学技術振興機構(JST)の採用する電子投稿査読システム Editorial Manager ®を新たに導入、世界共通のプラットフォームでストレスレスな投稿、丁寧で親身な審査に加え、迅速な編集・出版を可能にしました。そして、細胞遺伝学と細胞学に加え、核型解析、ゲノム科学、系統分類や生態学などの最新成果を掲載して出版しております。詳しい投稿方法は英語版の“[Instructions to Authors](#)”に右側のQRコードからアクセスしてご覧ください。



## 10. 学術誌CYTOLOGIAおよび日本メンデル協会はサンフランシスコ宣言に署名しています

「研究評価に関するサンフランシスコ宣言」の署名者は、研究評価における以下のような方法の適用に賛同しています。

- (1) 個々の科学者の貢献を査定する、すなわち雇用、昇進や助成の決定をおこなう際に、個々の研究論文の質をはかる代替方法として、インパクトファクターのような雑誌ベースの数量的指標を用いないこと。
- (2) 助成申請者の科学的生産性の評価に用いられる判断基準が明示的であること。また、特にキャリアの初期段階にある研究者に対して、出版物の数量的指標やその論文が発表された雑誌がどのようなものであるかということよりも、その論文の科学的内容の方がはるかに重要であることを、はっきりと強調すること。
- (3) 研究評価を行う上で、研究出版物に加えて（データセットやソフトウェアを含む）研究のすべての成果の価値とインパクトを検討すること。また、政策や実用化への影響といった研究インパクトの質的な指標を含む、幅広いインパクトの評価基準を考慮すること。
- (4) 雇用、任期、昇進の決定する際に用いられる判断基準が明示的であること、特にキャリアの初期段階にある研究者に対して、出版物の数量的指標やその論文が発表された雑誌がどのようなものであるかということよりも、その論文の科学的内容の方がはるかに重要であることを、はっきりと強調すること。
- (5) 販売促進手段としてのインパクトファクターの強調を大幅に縮小させること、理想的にはインパクトファクターの宣伝を中止すること、または雑誌のパフォーマンスについてより豊富な視点を与える様々な数量的指標（例、5-year impact factor、EigenFactor、SCImago、h-index、編集と出版に要する時間等）の文脈に沿った上でインパクトファクターを提供すること。
- (6) 様々な論文レベルでの数量的指標を利用可能にすること、それによって論文が発表された雑誌についての数量的指標ではなく、論文自体の科学的内容を基にした評価への転換を促すこと。

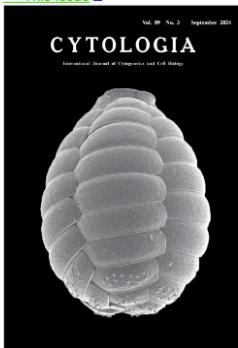


## 11. 学術誌CYTOLOGIA最新号のご案内

日本メンデル協会にご入会いただき、キトロギアに論文原稿を投稿ください。キトロギアの最新号のHPトップページを下記に記します。右のQRコードからも最新号を閲覧できます。



[\*\*>> This Issue\*\*](#)

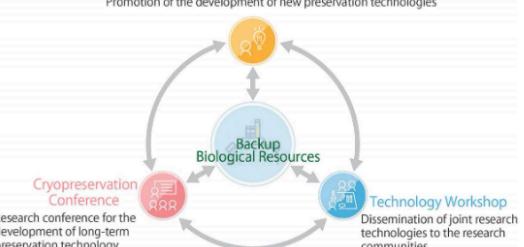


**Technical Note**  
Visualization of the shell structure of the testate amoeba *Paulinella micropora* by FE-SEM

Amoebae belonging to the Euglyphida in Rhizaria have shells, which are mostly constructed by self-secreted siliceous scales. See [Nomura, M. \(2024\) Cytologia 89, 179-180](#).

[\*\*>> Cover Photo Gallery\*\*](#)

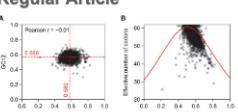
**NIBB Collaboration Research Program**  
Promotion of the development of new preservation technologies



**Focus**  
**A guide to the use of the Inter-University Bio-Backup Project (IBBP) for the sustainability of individual research, even in the event of natural disasters or other unexpected accidents**  
See [Tsugane, K. et al. \(2024\) Cytologia 89, 181-185](#).

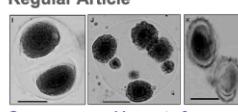
**Current Articles**

**Regular Article**



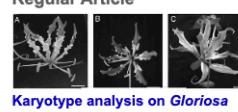
Optimizing codon usage and gene evolution in the unicellular red alga *Cyanidioschyzon merolae*  
See Kondo, Y. et al. *Cytologia* 89, 187-195.

**Regular Article**



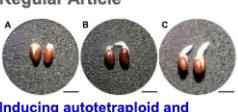
Occurrence and impact of polyploidy in dicotyledonous plants from Kinnaur, Himachal Pradesh (India)  
See Kaur, D. *Cytologia* 89, 197-202.

**Regular Article**



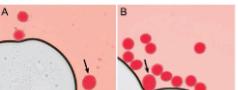
Karyotype analysis on *Gloriosa superba* using enzymatic maceration and air-drying-based Giemsa, DAPI, and CMA staining techniques  
See Jha, T. B. et al. *Cytologia* 89, 203-209.

**Regular Article**



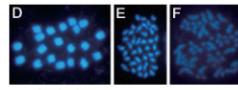
Inducing autotetraploid and developing a rapid propagation strategy for *Codonopsis pilosula*  
See Gao, J.-R. et al. *Cytologia* 89, 211-223.

**Regular Article**



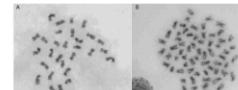
The size of viable pollen is correlated with ploidy level, as evidenced by a polyploid series of *Ociimum* L. from Thailand  
See Lekhapan, P. et al. *Cytologia* 89, 225-234.

**Regular Article**



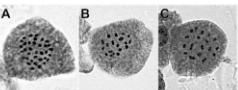
DR-OPC01 sequence disperses throughout the *Drosera rotundifolia*-derived genomes in the allohexaploid sundew *Drosera tokaiensis*  
See Katogi, T. et al. *Cytologia* 89, 235-244.

**Short Communication**



Endopolyploidy dynamics in the cerebral ganglion development of *Solenopsis saevissima* (Smith, 1855) (Hymenoptera, Formicidae)  
See Tavares, M. G. et al. *Cytologia* 89, 245-250.

**Karyotype Report**

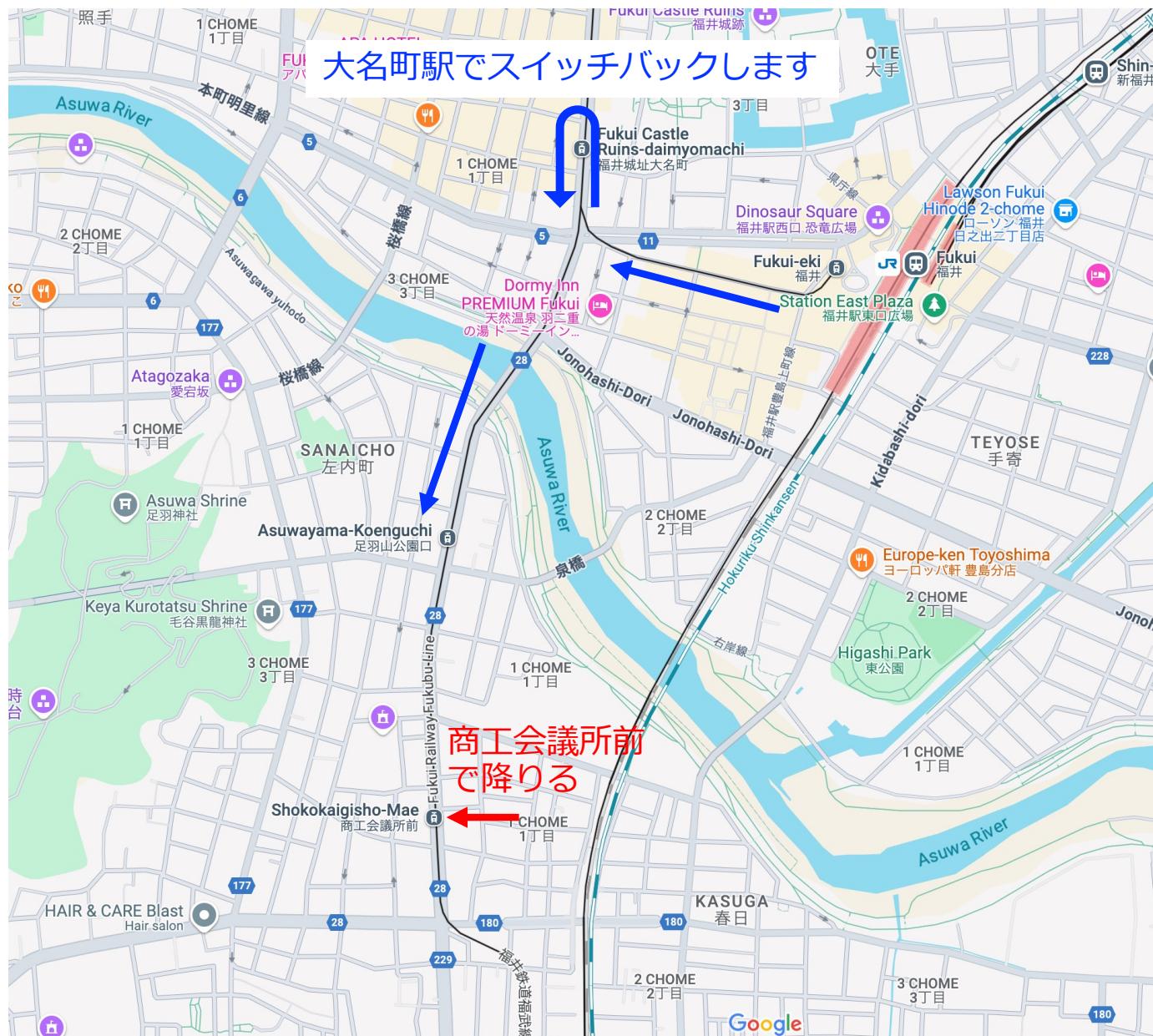


Chromosome number report of six *Carex* sect. *Mitratae* taxa from the Korean Peninsula (Cyperaceae)  
See Masaki, T. et al. *Cytologia* 89, 251-255.

# 福井駅から商工会議所前駅までの地図

福井駅から商工会議所駅までは福井鉄道で約12分（180円）、徒歩で約15分です。

## 福井鉄道 福井～商工会議所までのMAP



## 福井鉄道 時刻表

たけふ新方面にお乗りください。

たけふ新方面（上り）

20 50

(神明まで急行  
神明～たけふ新：普通)

21

(神明まで急行  
神明～たけふ新：普通)

15

休日運休

17 55

24 27 57

(足羽山公園口・  
商工会議所前は通過)

27 57

27 57

27 57

27 57

27 57

27 57

27 57

27 57

37

福井商工会議所 配車位置

## 駅から商工会議所までの地図

